

(1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」

- ・高野山は、弘仁7年(816)に弘法大使空海が、真言密教の根本道場として嵯峨天皇よりこの地を賜り、標高800mの山上盆地に「金剛峯寺」を開創して以来、1200年の歴史を誇る日本仏教の「聖地」です。
- ・橋本・伊都地域は、高野山と長きにわたり繋がりを保ち、現代も空海と高野山にまつわる史跡が数多く存在します。空海に高野山を授けたと伝わる女神の社である「丹生都比売神社」、丹生酒殿神社から丹生都比売神社へ続く参詣道「三谷坂」、空海が道の要所として創建した「慈尊院」、金剛峯寺の荘園であった官省符荘の鎮守社として創建された「丹生官省符神社」など、空海に縁のある史跡だけでなく、高野山の麓に暮らす人々が、土地の神々や空海を敬い創建したものなど、当時の高野山と麓の人々とが織りなした「文化」が「文化的景観」とともに今も息づいています。
- ・また、古の人々が高野山を目指し、祈るため、あるいは様々な物資を運ぶために行き来し、時代や用途に応じて活用されてきた複数の道は「高野参詣道」と呼ばれ、それぞれ異なる歴史、趣、物語があります。
- ・多様な信仰を育んだ霊場と参詣道、そしてそれらを取り巻く文化的景観の価値が認められ、峻険な山嶺と深遠なる熊野三山に、高野山、吉野・大峰を加えた紀伊山地の霊場と、それらを結ぶ参詣道が、世界でも類を見ない価値が高い資産として、平成16年(2004)にユネスコの世界文化遺産に登録されました。

(2) 女人高野

- ・高野山は、近代まで「女人結界」が定められ、境内への女性たちの参拝は叶いませんでした。そんな時代にあっても女性たちの、身内の冥福を祈る声、明日の安らぎを願う声を聴いていた「女人高野」と呼ばれる慈尊院や不動坂口女人堂等のお寺があり、『紀伊国名所図会』でも描かれました。
- ・そこに描かれた「女人高野」は時を超え、時に合わせて女性とともに今に息づき、訪れる女性たちを癒し続けています。

(3) 葛城修験

- ・和歌山～大阪～奈良の府県間に跨る葛城の峰々は古くから神々が住まう場所として、人々に崇められてきました。修験道の開祖といわれる役行者がはじめて修行を積んだこの地は、世界遺産の吉野・大峯と並ぶ「修験の二大聖地」と称されています。
- ・この地には、役行者が法華経を埋納したという28の経塚があり、今も修験者たちがその経塚や縁の寺社、滝や巨石を巡り修行をしています。そしてその修行にはいつの時代も、この地に暮らす人々との深いつながりがありました。修験者や地域の人々が守り伝えてきた聖地「葛城修験」。修験道の歴史は、ここから始まりました。

(4) 観光地としての橋本・伊都地域

- ・橋本・伊都地域の管内4市町は、4市町全てが世界遺産を有するという県内でも稀有な地域であるため、日本人だけではなく、欧米豪等からの訪日外国人が多数訪れる観光地となっています。
- ・高野山には世界遺産の構成資産である「金剛峯寺」をはじめ奥之院、壇上伽藍、

大門、多宝塔など多くの建造物が存在しています。また、数多くの国宝や重要文化財を所蔵している「高野山霊宝館」も魅力の一つです。加え、風情のある庭園を持つ宿坊寺院に宿泊し、精進料理に舌鼓を打ち、勤行などを行うことで心身ともに癒され、ここでしか味わえない感動と楽しみに触れる「生活文化体験」が大きな魅力となっています。高野山は訪日外国人にとって魅力的に映るとともに、日本人が忘れかけた日本の原風景を感じることでできる場所だとして、多くの訪日外国人を惹きつけてやまない力があります。

・「金剛峯寺」、「丹生都比売神社」、「丹生官省符神社」、「慈尊院」からなる一帯を結ぶ「町石道」や、高野七口の一つ黒河口へ至る道で、豊臣秀吉が高野登山の帰途に用いたといわれる「黒河道」などの「高野参詣道」は、信仰の道としての歴史的・文化的価値、美しい自然景観を感じることができる道として、多くの人を魅了し続けています。

・また、当地域は、世界遺産だけでなく、「日本一の兵」真田幸村ゆかりの重要な歴史的資産等があり、また、無形民俗文化財に登録されている「花園の御田舞」をはじめ、細川八坂神社の「傘鉾祭」、上古沢巖島神社の「傘鉾」、椎出巖島神社の「鬼の舞」、隅田八幡神社の「秋祭」など各種伝統行事も脈々と受け継がれており、平成29年（2017）に世界かんがい遺産に登録された小田井用水の数々の水門や、歴史を感じさせる大和街道、万葉集で詠まれた風景など古の人々が思いを馳せた数々の場所を有し、観光客にとって魅力的な観光地となっています。

（5）企業誘致

・橋本市においては、平成19年度（2007）から既存工業団地「紀北橋本エコヒルズ」を整備することで、誘致企業等45社が操業し、1,765名の雇用が生まれました。【令和6年4月1日時点】

・また、令和2年度（2020）より新たな工業団地である「あやの台北部用地（第1次事業）」の造成に着手し、早期分譲完了に向け、積極的な誘致活動の実施及び更なる工業団地の整備（第2次事業）を計画することで、新しい雇用の場の創出を促進しています。

（6）伝統的地場産業

紀州へら竿

・100年以上の伝統を受け継ぐ紀州へら竿は、真竹・高野竹（スズ竹）・矢竹を使用し、竿師の高い技術力で作られるへらブナ釣り専用の竿であり、原竹の切り出しから生地組み、火入れ、漆塗り、穂先削りなど、130以上の工程を完成まで全て手作業で職人が約1年がかりで仕上げています。全国シェアは90%を誇ります。

・次世代に技術を継承するだけでなく、伝統を守りながらも、時代に合わせて変化し販路を開拓するため、紀州製竿組合では、橋本市内外で釣り大会を開催したり、展示会へ出展するなど国内はもちろん、海外の顧客獲得にも積極的に取り組んでいます。

パイル織物

・全国シェアの大半を占め、パイル織物の生産量が日本一の橋本市高野口町。

- ・毛が抜けにくく、丈夫で長持ちし、高級感もあるのが特徴で、長年培われた技術によって様々な機能性、付加価値をつけることによりインテリア用品、毛布や寝具、アパレル用品、産業資材、車両のシート、国会議事堂の椅子など幅広いジャンルで活用されています。

- ・従来の事業者向け布地の卸業に加え、ターゲットを明確にし、デザイン性のあるストールやバッグ、ファーベストなど女性向けの製品を自社開発するなど、消費者へ直接販売する動きもみられます。

(7) フルーツ

- ・紀の川の流れる平地から南北に伸びる丘陵地帯。その全域が果樹園に覆われ、柿・桃・ぶどう・梨・いちごなど、たくさんのフルーツが一年中栽培されており、とくに富有柿は、「姿良し、色良し、味良し」の三拍子揃った日本一の品質を誇る絶品の柿です。

- ・また、観光農園も各地に点在しており、とれたての果物を味わったり、収穫体験を楽しむことができます。